

# ダブルシンク法により分娩後初回授精日数が短縮できる

福島県農業総合センター 畜産研究所 酪農科

## 1 部門名

畜産－乳用牛－畜産繁殖

## 2 担当者名

壁谷昌彦、宮野英喜、横田和子、高萩淳子、瀧脇広子、鎌田泰之

## 3 要旨

定時人工授精技術であるダブルシンク法により、分娩後の初回授精を早期に計画的に実施した結果、発情観察をすることなく人工授精を実施出来、初回授精日数が短縮した。

(1) 分娩後 40 日以降に黄体および直径 8mm 以上の卵胞を確認し、ダブルシンク法により定時人工授精を実施した (図 1)。

(2) 自然発情と比較してダブルシンク法の方が、初回授精日数が短くなった (表 1)。

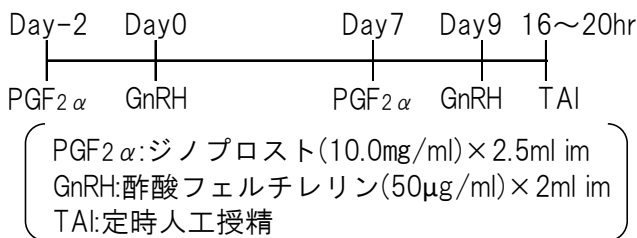


図 1 ダブルシンク法プログラム

表 1 黄体確認日数及び初回授精日数

|                   | 黄体確認日数    | 初回授精日数                 |
|-------------------|-----------|------------------------|
| ダブルシンク法<br>(n=11) | 55.6±15.1 | 72.5±18.0 <sup>※</sup> |
| 自然発情<br>(n=12)    | 52.4±14.5 | 92.8±24.9 <sup>※</sup> |

※ (P<0.05)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元～令和 2 年度
- (2) 研究課題名 乳牛の安定生産技術の確立

## 5 主な参考文献・資料

- (1) O A Oztürk, Is Doublesynch protocol a new alternative for timed artificial insemination in anestrous dairy cows, *theriogenology*. 2010; 73(5):568-576.
- (2) 西川晃豊, 乳牛におけるダブルシンク法による卵巢静止ならびに黄体遺残の治療, 家畜診療, 63(1), p.15-21, 2016.